

# 日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年4月23日（火）

活動隊員：朝田和枝

## 1. 活動期間

2024年4月16日（火）8時30分 2024年4月18日（木）17時

## 2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

珠洲市立正院小学校（石川県珠洲市正院町川尻1部39番地）

旧珠洲市立飯塚保育所（石川県珠洲市正院町飯塚は部57）

日置公民館（石川県珠洲市折戸町34）

仮設住宅：正院町第1団地（珠洲市立正院小学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地）

宝立町第1団地（珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83）

三崎町第1団地（みさき小学校・石川県珠洲市三崎町粟津10-1）

三崎町第2団地（三崎中学校・石川県珠洲市三崎町宇治114）

仮設住宅入居説明会：4/16（珠洲市立上戸小学校・石川県珠洲市上戸町寺社5-74-2）

## 3. 石川県珠洲市の被害状況（4月16日14:00現在 石川県庁情報、同日本部会議報告より）

人的被害 死者：103人（うち災害関連死：6人） 負傷者：重傷47人、軽症202人

住宅被害 建物全壊・半壊・一部損壊：7,693棟 非住家被害：4,690棟

珠洲市内通水率31%（約300戸）

2次避難者約450名（うち430名が県外（福井県、富山県等）へ避難している）

上戸小学校の避難所は閉鎖となり、旧上戸保育所へ移転している。

三崎中学校の避難所は閉鎖となり、三崎公民館へ移転している。

4月21日には、正院小学校の避難所が閉鎖となり、正院公民館へ移転となる。

今後暑くなり、熱中症や食中毒の注意が必要である。

## 4. 避難所の状況

### 1) 大谷小中学校（4月17日（水）巡回訪問）

【避難者数】18人（うち65歳以上5人、児童生徒3人）（4月17日巡回訪問時）

#### 【避難所運営及び生活状況】

運営体制の変更や避難者数の増減はない。富山県へ2次避難した方は戻らず、富山県内の5カ所に避難されたが、どこへ避難されたかなど詳細は不明である。小学校の児童は震災前21人在籍していたが、現在5人になった。食事は、朝、昼は避難所内での自炊や炊き出し等であり、夜は弁当を食べているとのことであった。訪問時体育館内は2名（管理者1名と避難者1名）のみで静かであった。避難所での体調不良を訴えている方はいないとのことであった。断水は継続中で、室内の携帯トイレと体育館外にある仮設トイレを使用していた。

### 2) 珠洲市立正院小学校（4月18日（木）巡回訪問）

【避難者数】13人（男8人、女5人、世帯数12）（4月18日巡回訪問時）

#### 【避難所運営及び生活状況】

4月21日（日）小学校から公民館へ避難所が移転と予定。避難者13人中10の方が公民

館へ移動予定で、昨日から移転準備が行われ、公民館に新たなテントと段ボールベッドを準備し、日曜日に各自の荷物を搬入し移動予定である。食事は大谷小学校同様、朝、昼は避難所内での自炊や炊き出し等であり、夜は弁当を食べているとのことであった。訪問時のお昼もボランティアの炊き出しが来ており、外には食事を待つ仮設住宅や在宅で生活されている方を含む住民の行列ができていた。断水は継続中で、体育館外にある仮設トイレ使用中であった。正院小学校の児童も現在 13 人で、今年 6 人入学予定者であったが 2 人になってしまったと話されていた。現在 6 年生が 7 人おり卒業すると更に少なくなることを住民の方は心配していた。

## 5. 仮設住宅の状況

### 1) 正院町第 1 団地 (正院小学校グラウンド内 76 戸)(4 月 16 日 18 日訪問)

仮設住宅周辺の桜並木が満開であった。仮設住宅周辺の道路はアスファルトで舗装され、集会場前の空き地に住民の方々の駐車場の整備が行われていた。珠洲市の方々の交通手段は主に車であり、1 世帯当たり複数の車を所有している方が多く、駐車場が足りないことが問題となっていた。仮設住宅の住み心地については、「正院の仮設住宅は北海道からきた住宅でありヒーターも付いており温かく過ごしやすい」とある住民は話していた。4 月 17 日から 5 月に向けての鯉のぼりが小学校玄関と国旗掲揚のポールをロープで繋ぎ飾られていた。ある住民からは、「季節が変わり外も暖かくなり、衣類も冬物から春物になるが自宅から衣類を取り出すこともできず、着る服に困る」という声も聴かれた。

### 2) 宝立町第 1 団地 (宝立小中学校グラウンド内 153 戸)(4 月 16 日集会場視察)

天気も良く仮設住宅に入居準備のため、車で荷物を運んでいる方が多く見られた。仮設住宅はほとんど出来上がっているが、中には欠陥がある住居もあった。(珠洲市役所環境建設課が対応予定)小中学校内には今だ 70 人避難されているため、小学校横には自衛隊のお風呂や移動式ランドリーBOX が設置されていた。仮設住宅団地の集会場内は、台所、障害者用トイレ 1 か所、AED1 台があるのみで、まだ設備は整っておらず、今後冷蔵庫や椅子、机など、備品が設置される予定である。

### 3) 三崎町第 1 団地 (みさき小学校グラウンド内 50 戸)(4 月 17 日集会場視察)

団地内には談話室が設置されていた。正院町や宝立町と比較して、やや小さめの集会場で、台所、障害者用トイレ 1 か所、AED1 台が設置され、仮設住宅に配置される備品がおかれ、まだ利用はできない状況であった。今後冷蔵庫や椅子、机など、備品が設置される予定である。

### 4) 三崎町第 2 団地 (三崎中学校グラウンド内 60 戸)(4 月 17 日集会場視察)

団地内に集会場はなかった。この地区の集会場は三崎中学校横にある三崎公民館を集会場として利用する予定である。しかし、避難所を取り仕切る住民の話からは、三崎公民館には避難者が 6 名いることや、仮設住宅では代表者が決まっていないため、公民館をどのように使用するのかなど何も決まっていないとのことであった。

## 6. 支援活動の実際

- 8:30 9:00 健康増進センターで保健師ミーティングに参加
- 10:00 12:00 正院町第 1 団地集会場におけるお茶会開催 (健康体操含む)
- 13:00 16:00 避難所巡回
- 16:30 17:00 健康増進センターで保健師ミーティングに参加

### 【仮設住宅支援】

区長会主催：正院町第1団地集会場におけるお茶会（火・水・木曜日開催）

参加者：4/16(火) 7人 4/17(水) 8人 4/18(木) 9人

参加者の多くは高齢の女性であった。男性の方も畑仕事の帰りだと短時間ではあるがお茶を飲みに来られていた。参加者の中には、高齢の女性の多くは、自身の子どもたちから「倒壊した自宅は危険だから行かないように」と注意を受けているようで、行き場がなく時間を持て余している様子が伺えた。また、お茶会で出会った方々の中にも、顔は見たことはあるがお話するのは今回が初めてという方もいた。仮設住宅で生活する方の中には認知症の方もおり、その方については送り迎えをして参加してもらった。お菓子を食べ、お茶を飲みながら、たわいもない話をする中で笑顔が見られ3日間毎日参加される方が複数いた。お茶会では、民生委員による、椅子を使った高齢者向けの体操も実施され、楽しく、可笑しく行うことにより場がとて和んでいた。

### 【避難所巡回支援】

今回、福井県から来ている保健師チームと一緒に4月17日、18日の2日間、午後から避難所を巡回した。避難所の代表者から、在宅で過ごす高齢者男性が、腰痛が悪化しているとの情報を受けた。高齢者男性の自宅を訪問した時、部屋の奥からゆっくりと玄関先へ歩いてこられ、保健師の質問に苦悶表情で答えていた。現在病院には通院しており、外に出る際は杖を使用し歩行しているとのことであった。食事も近隣住民の方が気にかけて弁当や支援物資を配達しているが、塩気が強く口に合わないとのことであった。保健師チームは、今後地域包括支援センターへ引き継いでいく予定であると話していた。今回巡回したどの避難所も、平日で天気が良いこともあり、仕事や外に出ている方が多く、避難所に残っている方は12名程度であった。困りごとのある方、体調を崩している方はいないとのことであった。

## 7. 支援活動を通しての所感と課題

震災後3カ月半が経過し、2次避難された方の多くは今だに戻ってこられない状況もあり、児童の数は激減し、珠洲市の人口減少が進んでいた。倒壊した住宅は手付かずの状態であり、今後の見通しも立ちにくい現状が伺えた。このような中、市内の各地区では仮設住宅が建設され、避難所生活から新たな避難所または仮設住宅へと生活の場が変化していた。仮設住宅団地の中には集会場が出来ているが、現在活用が始まったのは正院町のみで、他の地区では団地内での住民同士の話し合いがされていないという声も聴かれ、集会場の活用、コミュニティ形成についてはこれからという状況である。お茶会を通して住民の笑顔を見てると住民が集える場の必要性を強く感じ、今後このようなお茶会やイベントを通して住民同士がこれからの生活についてなど話し合える場が多く持てることを期待しつつ、継続的な見守り支援が必要と思われた。



お茶会の様子



100歳体操の様子